

Diversity *in* Science

弘前大学で活躍する女性研究者たち



乳幼児の成長と発達。

弘前市と協定を結び、平成25年度より弘前市版5歳児発達健診事業を立ち上げ、弘前市の就学前の5歳児すべてに対して発達健診を行なっています。幼児における発達障害の有病率、併存障害の合併率、リスク因子など疫学的考察を行う他、発達障害の幼児期における社会性や行動、認知的特徴や運動能力、睡眠特性について、心理検査を行いながら注視点検出装置や遺伝子、血液中のホルモンやタンパク、脂質との関連について研究しています。さらには乳幼児健診の簡便かつ効率化を検討し、医師の少ない自治体でも使用可能な診断ツールを開発すること目的に研究を行っています。

保健学研究科

斉藤 まなぶ

Manabu Saito

専門分野

- 児童精神医学
- 臨床精神神経薬理学

研究テーマ

- 「5歳児における発達障害の診断手法の開発と疫学研究」
H25～弘前市受託研究、H28～30 科研基盤研究C 研究代表者
- 「注視点検出技術を活用した発達障がい診断システムの開発」
H27～29 AMED-ICT 分担研究者

My Work-Life Balance

家族は夫、大学生と高校生2人の子どもと猫2匹。医師という職業柄、緊急対応などによる残業が多く、休日も少ないですが、子どもの成長過程に応じて、仕事と家庭の優先順位を柔軟に変えて勤務を継続してきました。



趣味のガーデニング